

# 顧客満足をとことん追求する 日本初のピローブロックメーカー



## 日本ピローブロック株式会社

### 多品種少ロットで ニーズに対応

日本ピローブロックは昭和25年、日本で初めてピローブロック（転がり軸受ユニット）の生産に成功し、現在に至るまで専門メーカーのトップとして存在感を保ち続けている。一般ベアリングが7500億円程度の市場規模であるのに対し、ピローブロックは210億円程度だが、取り付け取り外しを簡便にした軸受ユニットで、鋳物ケースとベアリングがセットされた製品であり、ボルトで止めればすぐに使える利便性から重宝されてきた。

ピローブロックは搬送コンベヤ、送風機、食品機械等、いずれも縁の下の力持ち的存在として使われており、確実に必要だという強みがある。「隙間的な部分に使われる典型的な多品種少ロットの製品です。大量に作って大量に販売する性質のものではありませんが、1個、2個、という積み重ねが着実に数字になります」と小林保一専務は言う。

### セラミック関連を もっぴとんの柱に

「環境に優しい」が企業理念になる昨今、ベアリング業界も例外ではない。資源を大切に使うという観点からより長寿命の製品を目指し、20年近い歳月をかけて開発したのが、セラミックボールを使用したハイブリッド軸受。セラミック素材をボール（球状）にしたことで強度が上がり、どこから加圧がかかっても均等に分散でき、なおかつ耐磨耗・耐熱性に優れるという特長を持つ。薬品、水、高熱、高速等、苛酷な条件下での使用リスクを激減させた。こうした技術ノウハウの蓄積を可能にしたのは、前段階は中国工場、仕上げは国内工場と役割分担をしながら、素材から完成品に至るまでセラミックづくりの一端を自社で担ったことにある。

「価格的には高いのですが、製品コストが上がってもトータルコストで見ればセラミックのほうが安くつきます。取り替え作業にかかる人件費や期間のストップコストが解消されるからです。設備のセットメーカーはインシヤルコストを押さえたいでしょうし、補修やメンテナンスが仕事にもなっています。ユーザーにとっては長寿命でメンテナンスが楽なほうが喜ばれます。当社としてもセラミック関連製品の売上利率を増やし、一つの柱にしていきたいと考えています」。

を嫌う条件下ではステンレス製を……のように、ユーザーの使用条件によってあらゆる軸受を提供している。高品質、小ロットを短納期で実現し、小回りのきく対応を心がけている。その姿勢こそが小林百太郎社長の言う「妥協を一切許さない顧客満足の追求」なのだ。

### 主な事業内容

転がり軸受ユニット、セラミック軸受の製造等



小林百太郎さん  
代表取締役社長



小林保一さん  
代表取締役専務

日本ピローブロック株式会社

Company Profile

住所 / 〒587-0022  
大阪府堺市美原区平尾2306  
創業 / 昭和21年  
設立 / 昭和25年10月  
資本金 / 4,500万円  
従業員 / 282名（平成21年1月現在）  
TEL / 072-361-3750  
FAX / 072-361-4173

大阪20

ISO 9001

<http://www.fyh.co.jp/>